

登米市地域公共交通計画（案）に対する意見の概要及び意見に対する考え方

No.	関連項目・ページ	意見の概要	意見に対する考え方
1	5.2/p12 ①-1「市民バスの見直し」 5.2/P13 ②-2「デマンド型乗合タクシーの検討」	バスの本数を増やす又は維持しながら、タクシー会社と協力して、免許や移動手段がない方への補助になるようなものがあると思います。特に津山町、米山町、石越町とかが大事だと思います。	市民バスにおいては、運行ダイヤや路線の見直しにより、より利便性が高く効率的な運行となるよう努めてまいります。現在の移動手段がない方への支援としましては、75歳以上の方は運賃を100円とし、小学生以下や障がい者手帳等をお持ちの方は無料としているほか、運転免許自主返納支援事業として市民バスを1年間無料で利用できる「あしがらくん」の交付を行っております。 また、町域内の移動に関しては地域コミュニティ主体のデマンド型乗合タクシーの導入が有効と考えていることから、地域コミュニティ及びタクシー会社と連携し、導入を推進してまいります。 ご意見をいただきました3つの町域に限らず、市内9町域の公共交通を総合的に検討してまいります。
2	5.2/p15 ④-1「ホームページ等による情報環境の強化」	(1)市のホームページで紹介している施設は、最寄りのバスの路線名・バス停名、バス停からの徒歩時間を表示。個別にホームページを作っている場合も、アクセスに「車で〇分」ではなく、バス停とバス停からの地図をつける。バスではいけない場合もその旨を記載する。 (2)市主催のイベントの通知やチラシに、開催場所の最寄りバスの路線名・バス停名、バス停からの徒歩時間を表示。地図にもバス停を明示。	ホームページやイベントチラシなどのわかりやすい掲載方法につきましては、市民バス利用者増の取組の一つとして、今後の参考とさせていただきます。
3	5.2/p19 ⑥-1「現行取組事業の拡大」	(3)バス停名の音声案内に商業施設や医院名を入れる広告を募集する。車内広告を募集する。音声広告は市外から訪れる人に効果的と思われる。	p19「施策⑥新たな財源確保等による収支の改善」に記載しておりますとおり既に実施している市民バス停留所広告掲載事業に加え、新たな財源確保に向けた取組を検討することとしておりますので、ご提案のバス音声案内の広告についても併せて検討してまいります。
4	5.2/p12 ①-1「市民バスの見直し」	(4)小学生未満は無料、小学生料金を100円とし、学割定期を発行する。学割定期を買った場合、マイナンバーなどの申請で市民であれば交通費を子育て支援費などで還付し、市民は小学生実質無料として子育てしやすい自治体をアピールする。定期券を買えばバスを使う。	現在市民バスは小学校6年生までの運賃は無料とし、通学支援及び市内の移動支援をしております。 また、市民バス全路線で利用でき、通常運賃よりお得なフリーパスを発行しており、中学生以上の学生が購入できる学生フリーパスについては一般フリーパスより割引率を高く設定しております。
5	5.2/p12 ①-1「市民バスの見直し」	(5)バスで人だけでなく荷物を移送する事業を請け負う。もし市役所間でメール便のような文書や備品等を運ぶだけの車を走らせているなら、ガソリン代・車の保守費・運転手の雇用を減らせるのでは。	(5)経費削減についての有益なご提案ではありますが、市役所間でのメール便には、個人情報や機密情報が記載された書類が多く含まれることなどの理由により、現状では困難と考えます。

No.	関連項目・ページ	意見の概要	意見に対する考え方
6	5.2/p12 ①-1「市民バスの見直し」	(6)(1)でバス停が近くにない、住民バスのバス停のみの場合、住民バスを市民バスの路線に組み入れるなど、市民バスの停留所を作ることを検討する。	(6)住民バスについては、原則市民バスを運行していない地区の移動手段となっており、住民バスと市民バスの運行経路は一部を除き重ならないものと認識しております。いただきましたご意見は利便性向上の手段として今後の検討の参考とさせていただきます。
7	5.2/p15 ④-1「ホームページ等による情報環境の強化」	(7)他市町村から利用される公共施設については、停留所周辺のコンビニや飲食店、公園の地図を掲示する。他市から登米市の病院に通っている人のために、病院に院内の食堂や売店も含め、食事ができるところの地図を用意し、ホームページから画像をダウンロードしておけば、バスの待ち時間が長い場合、一駅くらいならバスに乗ってでかけることもあろうかと思う。特に高速バス乗り場は有効なのは。	ご意見として承り、今後の参考とさせていただきます。
8	その他	市の施設と有機的な道路網の構築を。「持続可能な公共交通への取組」という現状に基づく施策ではなく、将来を見据えた投資としての交通インフラ整備を検討願いたい。 ・人口流出を防ぐ ・人口の移住（Iターン／Uターン／Jターンのいずれを狙うのか） ・移住ではなく交流人口を増やすことにより税収アップを狙うのか交流人口として観光目的・就業目的・就学目的・通院目的など、目的別に検討が必要 施設建設とそこへのアクセスは常に同時に検討しなければならない。	ご意見として承り、今後の参考とさせていただきます。
9		子どもの教育に良い・子育てしやすい市としてバス道路網を整備する。 (1)高校生だけでなく、保護者を含む幼児から学生全般を公共交通の重点対象者にすべき。 「消滅可能性自治体」脱却のため、幼児から子育てしやすい交通計画をたてるべき。小中学校の統合を進めているのに公共交通機関をともに整備していない状況では、今の学生が成人したのち登米市で子どもは育てられないと他の市外に流出してしまうのは明らかである。自然が豊かで、宮城国体の時に作った立派なスポーツ施設がや文化施設があるが、保護者の送迎がなければ利用できない。市民バスで子どもだけで利用できるようになれば、学生のスポーツの能力、文化芸術学力の向上が見込まれ、市外の人も利用しやすくなり、市のイメージアップも図られる。学校中心のバス網を構築し、「子育てしやすいから移住したい」と思われるような交通整備をするべき。	ご意見として承り、今後の参考とさせていただきます。

No.	関連項目・ページ	意見の概要	意見に対する考え方
10	5.2/p16 ④-3「高校生の市民バス利用促進」	(2)高校の徒歩通学圏に下宿や寮を準備して市があっせんし、そこからバス路線を整備する。市外からの高校生を下宿等で受け入れる場合、現在のように保護者が車で送迎することを前提としてバス運用でなく、生活に必要な場所、校外学習に必要な場所へ向かう公共交通の路線を整備。学校を中心として、学業・スポーツなどのアクセス経路を検討する必要がある。	ご意見として承り、今後の参考とさせていただきます。
11	5.2/p17 ⑤-1「他分野との連携」	(3)病院や老人ホームとの連携 地域住民、学生が病院へのアクセスにバス利用できるような運営。佐沼病院へはバス路線が集中しているが、豊里病院・米谷病院は一部地域しか対象となっていない。運転免許を持っていても、患者本人が運転するのではなく、公共交通機関を利用できるようにしたほうが良い。バスのルート、時間帯の検討とともに診療科目の見直しなども必要になる。学生ボランティアやインターンシップなどで学生が老人ホームにバスで通えるようにすると市のイメージアップになるのではないかと。親が面会時間に行けないときにバスが近くにあれば子供が荷物を持って行けたりする。東和小学校は統合したことで病院・診療所には親の送迎なしには学校を休むしかない状態になった。佐沼地域の循環バスで皮膚科前でランドセルの小学生が降車するのを見て、ずいぶん格差をつけるものと思った。 また、個人歯科医で大きい病院の紹介状を書くといわれた際、豊里病院を紹介されたが、バスでは日帰りできないため東北大学病院にしてもらったことがある。高速バスを使用すれば仙台の病院を日帰りできるのに、乗換の都合で同じ市内の豊里病院に行くのにどこか病院の近くで泊まらなければならない、また、一泊してからでないと帰宅できない。	ご意見として承り、今後の参考とさせていただきます。
12	5.2/p17 ⑤-1「他分野との連携」	市外からの訪問者、観光客を対象とした交流人口の促進 (1)長沼 おかえりモネをアピールしている割に長沼へのバスが無い。河北レガッタや風土マラソンなど全国から人が集まるというのにピンポイントで来てピンポイントで帰る人ばかりである。周遊バスを運行して、ほかの地区も観光して回ってお金を落としてもらうことを考えるべき。高校生の活躍を見て小中学生でボートやカヌーに興味を持った子供たちが、親などの都合を考えることなく観戦したり、カヌー教室に参加したりできるようになると、高校で部活をはじめるより早くから鍛えることができる。 おかえりモネコースとして土日だけ冬季を除く運行をしてみる。イベントがある週は大型バス、ない週は小型バスで運行し、ガソリン代を抑える。各高校から長沼のレースに観戦・参加しやすいようにルートに高校を含める。産業高校などはイベントに合わせ校外学習として屋台を出して資金調達から仕入れ、納税まで生徒に行わせるような独自の教育をアピールできると、市外からの高校入学者が増加するかもしれない。	ご意見として承り、今後の参考とさせていただきます。

No.	関連項目・ページ	意見の概要	意見に対する考え方
13	5.2/p17 ⑤-1「他分野との連携」	(2)津山 平安時代から続くような神社・仏閣、伊豆沼や平等沼などの景勝地があっても、車でしか回れないのでは観光人口は増えない。横山不動尊、柳津虚空蔵尊など、登米市なのに気仙沼線からのアクセスしかない。バスがあれば市内からの参拝者も見込まれる。	ご意見として承り、今後の参考とさせていただきます。
14	その他	市として、工場誘致や都会の人の就農支援事業計画があるというのであれば、そちらを明確にして交通施策を合わせて計画していただきたい。	ご意見として承り、今後の参考とさせていただきます。
15	1.5/p2 上位・関連計画等と計画の位置づけ 5.2/p17 ⑤-1「他分野との連携」	表の「その他 登米市の 関連計画」に「子ども・子育て支援事業計画～安心・子育て・住み続けたいまち・とめ」を追加する。	「第三次登米市子ども・子育て支援事業計画」には公共交通に関連するの記載がないことから追記はいたしません、重要な計画であるため、施策⑤-1「他分野との連携」に包含していることから、今後の検討の際に参考にさせていただきます。
16	5.2/p13 ②-1「デマンド型乗合タクシーの検討」	「各地域におけるヒアリング、機運醸成、実証運行などの取組による導入推進を図る。」を「交通手段を持たない子どもや高齢者へのヒアリング、機運醸成、実証運行などの取組による導入推進を図る。」に修正する。	「交通手段を持たない子どもや高齢者へのヒアリング」は重要と考えますが、各地域の実情に合わせヒアリングを実施することから、子どもや高齢者は「各地域」に包含されているものと理解しておりますので、このままの表現とさせていただきます。
17	5.2/p13 ②-1「デマンド型乗合タクシーの検討」	デマンド型乗合タクシーは主に高齢者を対象にしたものと認識されがちなので、子どもも対象であることを明確にし、子どもへの需要調査も行っていきたい。	デマンド型乗合タクシーについては、高齢者だけでなく小学生以下の利用も可能であることをさらに周知するよう、実施主体である地区コミュニティに働きかけてまいります。 また、今後もデマンド型乗合タクシーを利用できる方が増加するよう導入地区の拡大に向けて取り組んでまいります。
18	5.2/p17 ⑤-1「他分野との連携」	教育や子育て支援の部署と連携して、子どもの交通手段確保について検討する。※令和6年度、市内の中学生の約2割、多い学区では4割～6割の生徒が送迎により通学しています。悪天候時は更に多くの生徒が送迎によって通学していると思われる。文部科学省のスクールバス導入の目安である6kmを超えて自転車通学をしている生徒が多くの学校にいる。	(教育委員会学校教育課) ご提言をいただいたスクールバスの運用については、小学生を対象とし住民バスと兼用運行しているところであります。 現在、中学生へのスクールバスの運用について計画はございませんが、今後、学校再編等踏まえ、スクールバスの運用について、住民バスの路線の運用などと併せ関係部署と協議をし検討してまいります。

No.	関連項目・ページ	意見の概要	意見に対する考え方
19	5.2/p13 ②-1「デマンド型乗合タクシーの検討」	住民バスの利用が低迷している地域を中心に、住民バスからデマンド型乗合タクシーへの移行を推奨してほしい。 現状のコミュニティ組織が運営主体となり、地域の実情に沿ったきめ細かな対応を行うという方針は概ね賛成だが、導入までの負担が大きいという側面もあるため、需要調査や広報を市が主体的に行うことにより、制度導入までのコミュニティ組織の負担を軽減してほしい。	毎年度、デマンド型乗合タクシーの未導入の地区コミュニティに対し、導入意向調査を実施しており、意向内容に沿った形で導入支援を行っております。 引き続き住民バスの利用状況や地域実情からデマンド型乗合タクシーの導入が有効と考えられる地区への積極的な働きかけを行うとともに、導入及び運営に関する事務負担について調査を行い、業務の効率化及び軽減について検討を行ってまいります。
20	5.2/p13 ②-1「デマンド型乗合タクシーの検討」	デマンド型乗合タクシーの利用を希望している住民が自身の地区内や希望の時間帯に運行していないために利用できない場合の要望及びコミュニティ住民以外の利用の需要について把握する方策の検討をしてほしい。	デマンド型乗合タクシーについては地域内交通としての役割を担っており、導入地区外の住民を含む未登録者は、該当地区内での移動が可能となっております。 また、未導入地区の要望については、コミュニティ組織において把握していただくものと考えますので、ご意見に関しましては地区コミュニティに情報提供してまいります。
21	5.2/p13 ②-1「デマンド型乗合タクシーの検討」	施策②-2の最後の項目に「輸送効率のデータ化等により効率的で利便性のよい運行となるよう、地域主体と連携して取り組む。」とあるが「輸送効率のデータ化」とはどういうことか？ また、「移動需要データの収集」も入れていただけるとよい。修正案「輸送実績データの活用や移動需要データの収集により、効率的で利便性のよい運行となるよう、地域主体と連携して取り組む。」	本計画案における「輸送効率のデータ化」とは、各路線の利用状況を把握するにあたり、単に路線ごとの利用者数だけでなく、1便あたりの利用者数や地域人口あたりの利用者数、利用者1人あたりの運行経費等の数値化を行うことです。 よりわかりやすい表現とするため、「輸送効率のデータ化等により」の表現を「輸送実績のデータ分析及び移動需要の把握により」に修正いたします。
22	資料編 3.1/p58	「デマンド型乗合タクシーを利用しない理由」の回答に「居住地区にデマンド型乗合タクシーがないため」や「利用したい時間帯にデマンド型乗合タクシーが運行していないため」といった選択肢がなく、利用したくてもできない人の意見が拾えていない。	資料編3.1、p58の設問につきましてはデマンド型乗合タクシー実施地区（迫町森地区、東和町、中田町浅水地区）にお住まいの方のみに回答をいただいた設問のため、「居住地域にデマンド型乗合タクシーがないため」という回答は設定しておりません。実施地区のみへの設問である旨を明記いたします。 また、「利用したい時間帯にバスが運行していないため」の選択肢が実際のアンケートでは「利用したい時間帯に運行していないため」でありましたので、「バスが」を削除した表現に修正いたします。
23	その他	事業者へのヒアリングに挙げられたドライバー不足の課題に対する施策がない。新たに付け加えるべきでは。複数事業者による共同運行や人材の融通などの支援を検討してほしい。	全国的にドライバー不足が問題となっており、本市でも課題として認識しておりますが、本来各種交通事業者が取り組むべきものと捉えております。ご意見を踏まえ、今後、事業者が必要とする支援策について情報収集に努めてまいります。

No.	関連項目・ページ	意見の概要	意見に対する考え方
24	5.2/p13 ②-1「デマンド型乗合タクシーの検討」	お年寄りや子どもが利用するデマンド型乗合タクシーは、単なる移動手段だけではなく、福祉的な意味合いや話し相手という側面もあり、女性ドライバーの活躍が期待できる。保護者の中には運転手が女性だと安心だという人もいると思う。 また、ドライバー不足解消のため、第二種免許の教習時間を短縮するという国の方針が発表された。人材確保と女性活躍の視点から、新たに第二種免許を取る女性への支援などを検討してほしい。	ご意見として承り、今後の参考とさせていただきます。
25	5.2/p15 ④-1「ホームページ等による情報環境の強化」	市バスや住民バスの時刻表について、多くの人が利用しているGoogleマップへの掲載をお願いします。Googleと契約し、GTFSデータを登録することで可能で、費用は無料とのこと。	市民バスや住民バスの時刻表については市公式ホームページに掲載しているほか、市民バスについては一部の乗換え案内サイトにおいて検索することも可能となっております。 グーグルマップへの掲載については、ご意見にもありますように、バス停留所の緯度経度情報を含む「GTFSデータ」の整備が必要です。現在市ではこのGTFSデータは未整備であり、今後バスロケーションシステム導入の検討と併せGTFSデータの整備についても検討してまいります。
26	5.2/p14 ③-1「乗継ぎ利便性の向上」	現状の市内の医療体制が乏しく、人口減少の一因にもなっていると思う。市内で医療体制が整っていない科目などで、石巻日赤や大崎市民病院へ促される場合（妊婦や手術などを伴うもの）は、実際には自ら運転ができず家族などが運転することになり負担となる。 個人負担でタクシーは厳しいので、市民病院と連携している病院へは、バスの新規運行や交通費補助などをお願いしたい。	石巻赤十字病院及び大崎市民病院へは市民バスや高速バスを乗継ぐことにより、受診することが可能です。 バスの新規運行や交通費補助などのご意見については、今後の検討の参考とさせていただきます。